

## 会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (3)教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第1回産学連携推進員育成講座開発委員会
開催日時	令和7年7月16日(水) 16:00~18:00
場所	リファレンス西新宿大京ビル貸会議室
出席者	委員対面：柳田 祐大、森川 和哉、三村 隆男、石田 哲也 委員OL：林 透、土井 宏美、伊藤 政幸、久代 英俊 計8名 オブザーバ：岡村 慎一(統括委員会委員長) 計1名 請負業者：飯塚 正成 計1名 合計10名
議題等	<p>○本年度事業の概要(リーダー( )柳田)</p> <p>このプロジェクトは3年間のプロジェクトで、現在3年目を迎えている。主な目的は産学連携に関して専門学校にフォーカスし、先進的な事例を調査・研究する。令和5年度にはヒアリング調査やアンケート調査を実施し、令和6年度から研修の開発を進めてきた。今年度(令和7年度)の目標は、産学連携を推進できるファシリテーターを育成する。具体的には、昨年度開発した産学連携推進員育成講座を運営できるファシリテーターを養成するプログラムを開発・検証し、全国展開の準備を進めることが主な取り組みとなる。</p> <p>○チーム紹介</p> <p>森川氏(穴吹学園)：プロジェクト副リーダー、委員会の統括を補佐。3年目。</p> <p>三村氏(元早稲田大学)：カリキュラム開発、質保証、教職員向け研修の設計・実施担当。3年目。</p> <p>林透氏(金沢大学)：カリキュラム開発、質保証、教職員向け研修の設計・実施担当。3年目。</p> <p>土井氏(YIC 京都)：3校の専門学校と1校の日本語学院を展開する学校の就職サポート担当。委員会3年目。</p> <p>石田氏(学校法人浦山学園)：事務局系統候補系の担当。</p> <p>久代英俊氏(国際総合学園)：NSG カレッジリーグ、FSC カレッジリーグの学校分担当。公務員と法律の学校の部門長。</p>

<p>伊藤政幸氏（学校法人龍澤学館）：盛岡情報ビジネスデザイン専門学校 の責任者。 事務局：飯塚 オブザーブ：岡村氏</p> <p>○今年度のスケジュール： 第1回委員会（本日）：ファシリテーターの人材像明確化、認定要件設定、KPI 策定、参加者募集方法の検討 第2回委員会：8月27日（水）15:00-17:00に開催予定 第1回検証講座：9月24日～26日の間の2日間で実施予定。昨年度開発した産学連携推進育成講座を実施 第2回検証講座：11月26日～28日の間の2日間で実施予定。第1回の内容を紐解き、ファシリテーターとしてのスキルを養成 成果物完成：1月末までに「産学連携推進育成講座担当のファシリテーター養成講座」を完成させる 実績報告書：3ヶ年のまとめとして作成</p> <p>○リスク要因と対策： ・参加者数の確保が難しい可能性：幅広く募集をかけ、全専研にこだわらず全国展開を視野に入れる。他の事業（FD や SD）の案内と一緒に情報を発信する方法も検討。（飯塚） ・1回目と2回目の参加者数のバランス：昨年度の講座受講者に対しても参加を呼びかけ、2回目のファシリテーター講座のみの参加も可能にする。（森川） ・予算執行に関する厳格な審査：出張費などの予算執行について事前に事務局に確認する必要がある。当日入って翌日午前中に出発するなどのルールを守る必要がある。（飯塚） ・事業終了後の継続性の課題：次年度以降の講座運営について、委員会内から認定講師を選出する必要がある（柳田）</p> <p>○プロジェクトで使用するツールとリソース： ・Slack：令和5年度と6年度の取り組み状況や成果物のリンクを共有するために使用。（柳田） ・昨年度開発した産学連携推進育成講座の教材：今年度の第1回検証講座で使用予定（柳田） ・令和6年度に検討したファシリテーター養成方針等報告書：今年度の講座開発の基礎資料として活用（柳田）</p>
--

	<p>○プロジェクトの成功基準：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・産学連携推進育成講座のファシリテーター養成プログラムの開発と検証の完了（柳田）</li><li>・全国展開のための準備が整っていること（人材像の明確化、ファシリテーター認定要件の設定、KPIの策定）（柳田）</li><li>・ファシリテーターとして認定される人数の目標：10名</li><li>・地域的な多様性：一極集中ではなく、日本の様々な地域にファシリテーターが存在すること（三村）</li><li>・成果物の完成：「産学連携推進育成講座担当のファシリテーター養成講座」の開発（柳田）</li><li>・3ヶ年のまとめとしての実績報告書の作成（柳田）</li></ul> <p>○次のステップと行動計画：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第1回検証講座（9月）の案内文作成：20名を上限とし、お盆明けに案内を出す予定（柳田）</li><li>・第2回検証講座（11月）の名称検討：「産学連携推進育成講座アドバンスコース」や「上級コース」などの名称を検討（柳田）</li><li>・参加者募集：幅広く募集をかけ、特定の分野に絞らず多様な参加者を集める（柳田）</li><li>・第2回委員会の準備：8月27日の委員会に向けて、森川氏がSlackに資料を上げ、事前に委員からの意見を募る（柳田）</li></ul> <p>次年度以降の講座運営について検討：委員会終了後も継続して講座を実施できる体制づくりを検討（柳田）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他の事業（FDやSD）との連携可能性を探る：案内を一緒に出すなどの方法を検討（岡村）</li></ul> <p>○質疑応答の主なポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・林透氏から「ファシリテーター」と「産学連携推進員」の違いについて質問があり、三村氏が「ファシリテーターは機能面で、産学連携推進の高いレベルの人が講座内容を熟知してファシリテーションできる」と説明。</li><li>・伊藤氏から「ファシリテーター候補者のニーズや動機は何か」という質問があり、森川氏が「穴吹学園では幹部候補生の育成の一環として位置づけている」</li><li>・土井氏から「対象となる分野はどうするか」という質問があり、伊藤氏と久代氏から「分野を絞らず幅広く募集した方が良い」という意見が出された</li><li>・柳田氏から「研修運営上の人数制限」について質問があり、20名程度が適切という結論に至った</li></ul>
--	--

(様式)

	<ul style="list-style-type: none"><li>・林透氏から「全国展開の準備」について意見があり、全専研だけでなく幅広く参加者を募ることで育成講座自体の改善にもつながるという提案があった</li><li>・飯塚氏から予算執行について出張費の執行について厳格なルールがあることが強調された</li></ul>
配布資料	第1回産学連携推進育成講座開発委員会次第

以上